



神酒名

特別  
A5  
6590  
163



八五  
6590  
163

程奇集

あ  
れ  
の  
ま

舟

追  
儼

馬

氷



追儼

角立くきたる鬼らも打や  
よめふ今年も穢くあふ

鬼いささ打まひてもいり  
掛ぐやらふ豆板もあふ

強<sup>ク</sup>て<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>き<sup>ま</sup>ふ<sup>と</sup>進<sup>め</sup>せ<sup>の</sup>中<sup>の</sup>  
追<sup>い</sup>儼<sup>も</sup>も<sup>も</sup>福<sup>ら</sup>う<sup>ち</sup>ら<sup>く</sup>  
お<sup>し</sup>あ<sup>つ</sup>て<sup>た</sup>だ<sup>し</sup>め<sup>君</sup>の<sup>法</sup>代<sup>ある</sup>を<sup>し</sup>  
た<sup>ま</sup>し<sup>て</sup>お<sup>し</sup>る<sup>鬼</sup>屋<sup>の</sup>な<sup>ら</sup>む  
ま<sup>い</sup>と<sup>お</sup>き<sup>よ</sup>引<sup>籠</sup>の<sup>も</sup>ら<sup>う</sup>ら<sup>う</sup>  
ッ<sup>そ</sup>嘆<sup>く</sup>は<sup>ら</sup>り<sup>い</sup>る<sup>ふ</sup>そ<sup>有</sup>る

み<sup>じ</sup>く<sup>も</sup>う<sup>ち</sup>出<sup>は</sup>め<sup>ふ</sup>大<sup>江</sup>山  
い<sup>え</sup>の<sup>ち</sup>む<sup>れ</sup>て<sup>鬼</sup>や<sup>ぢ</sup>ふ<sup>ん</sup>  
鬼<sup>除</sup>の<sup>波</sup>の<sup>ひ</sup>ら<sup>き</sup>乃<sup>行</sup>安<sup>ふ</sup>  
た<sup>ふ</sup>ど<sup>き</sup>一<sup>條</sup>の<sup>赤</sup>繩<sup>う</sup>な  
鬼<sup>い</sup>き<sup>き</sup>お<sup>も</sup>ふ<sup>ん</sup>つ<sup>福</sup>う<sup>ち</sup>  
入<sup>思</sup>て<sup>ゆ</sup>か<sup>よ</sup>い<sup>ね</sup>つ<sup>と</sup>よ<sup>り</sup>

年もをうらぬ山と代まぬや  
鬼喰う後の春そえんてむさ

掛念の鬼もほちよくもひん<sup>△</sup>  
去<sup>〇五</sup>流<sup>キ</sup>宿の禰<sup>△</sup>らうちして。

ちりくと打いぬさうし鬼の目ふ  
涙といふまをぬるさうし

一<sup>セ</sup>の場<sup>イ</sup>祝ふや福<sup>ハ</sup>うち  
鬼を外<sup>ト</sup>へと滝<sup>ニ</sup>ふ<sup>コ</sup>うう

梓<sup>ク</sup>方<sup>ウ</sup>うんとまつる男<sup>ナ</sup>なり  
やうい鬼も矢<sup>ハ</sup>危<sup>イ</sup>いよたり

年<sup>ト</sup>もや鬼もあまふ引かへ  
又<sup>タ</sup>豆<sup>マ</sup>やの<sup>ホ</sup>赤<sup>カ</sup>春<sup>ノ</sup>の<sup>ミ</sup>を<sup>シ</sup>う

大まう夏うもや氏年の尾ふ  
迹行鬼もあふぬ君の代

おふ外へ鬼と外へと格束乃  
美ふ向<sup>キ</sup>あふとせと光がり聲哉

さかきき鬼おきふの韓ある  
よあのかるやのまふそき果あき

鬼うちお豆を焚<sup>イリ</sup>ぬる宝録乃  
九<sup>ノ</sup>一年もそいつう立ふま

鬼やうふ我身ハ綱よあふ筋とも  
あけおあなまをと涙ア

年並めうちあせて来る門口ふ  
さしゆる塩の赤<sup>カ</sup>翳うな

まやきぬて福うちとつり豆を  
さぞうらやあん鬼を外ふて

豆うちうけ鬼と追やる丑姑  
明うてむうらん富の月忌

節分の鬼切ぬも名あ陰う  
なま鏡あふるまうしうれ

鬼ハもぬ福をぬらうし福  
目土初と春之鏡垣れられ

ま年の昇新をまのあやふ  
まのそ鏡りしはそちのし



氷

風さすはらうと波はあうらうら  
氷ふとらうし 瀬の海流ら  
今鶴見の氷をいはず乃玉は  
こや池のよみそを流るる

草とりて採めし月色いつきのふ  
水ふとらそ乾も守せぬ

去つくいの堅うと足るも理りや  
まさと通入江の底るぬみ

うき付けふ来たる雪夜のアヒタニ  
板のしき水氷をそえん

糸も結らるるえいあめ枯葉に  
氷ふ綴るる川の花を

冬枯しも纏くちありてきつらう  
むさぶ氷乃解トきさるや

音羽山麓るるふも大雪これ  
氷ふとらて流は言あや

ふるふるおの川のふるふる

氷とらんを氷をさぬ

上ノ山ノ水ノ流ルル所ニテ

谷川乃うまふるふる今も今も

氷ふとらてきおししの流

水の酒とと新開流をの氷

豊社乃水と本とが志紀

ふるふる中森の麻や氷とん

きやたくと立流をさぬ

ふるふる氷の冴や流るる

川魚の風を鏡のやふて

ふるふるふるふる今も猿流の

池の氷ふふる月うま

さし辰や雨向の氷のおすし鏡  
おもてふ志が芳水浦をえり  
氷とを岩る水清つ〜〜  
とんと流のも志のぬる那  
るの鑊ふもり残りてしおるの水  
今朝ら氷おとを蓋とある

陸麻川ありさけんきい<sup>コト</sup>ちるもせぬ  
とらる氷をて雲のたご〜か  
岸洗ふと石をう叩し流氷  
ぬうづまこひのひき糸が子信木  
火打さ〜ぬぬ門田のあり水  
こ〜〜〜おまよひさ

標画のかみ尾川のり流るるの来て  
幾入里もあつて開る氷を

四斗杯ふ張るる水の水を流  
鏡と人おんるもことむり

山川ふふせざし楯のあつ氷

矢を射るほどの水をとめり

くまがき屋の物あり

射る川土用三節ちりりりり

今朝の水の張りのつよさよ

水海と濃踏みふ狐後るより

氷の橋よ人乃をしく

吾々のも近江表のみつうと乃

魚つらとちやのと人あつ氷を

山歌多きくの一はき一可居水  
るふきあききききききき  
いあの下も今世の屋下付を  
水も流るる流るるあは  
流るるも水もあきききき  
居るれとからるるあは

舟

あしてさや難波の浦れ風もよき  
あしの入舟不のええふきり  
君が杖違旅ひきき新なる  
舟舟旅るる流るるあは

さつちりせしんふふふ丸

をみね海ふ舟楫いせ八

梓弓を留きてを深き土佐の海を

凡ふ故ふるふ縁の矢は柳

黒玉深の色ともなりて世の舟を

将し小舟のりふ果るん

風やちこゝ風の深遠船へ舟

いふやち久舟の教もなげに

浪せ小舟釣のいとまこと清漕へ

世はあやつりねにむす

皆心沖は浪風あゝも

楫のちうへに遠白く舟

腫くをみ漕わさる 経る 小 船  
ほく安くを常しをる 式

出たの海流ををはる 切舟船  
帆の舟船  
やみふたにさしゆく 風の春風

舟のうみふとやのちあふ 船  
舟のうみふとやのちあふ 船

川舟ふ流をてぞとむ 海舟や  
秋の仲秋の月り 舟

舟のくと照石舟や 楫 杖  
舟のくと照石舟や 楫 杖

女舟の海舟の 海を 小 船  
いとあも波り 小 舟を 海



奈古の海ゆこのさめさふ登小松  
いざらきらふんこらかり火

初物を十五夜六夜帆掛ふ絲  
都の方ふさきさきる月

不のんこまねくは海め夕光  
猪名と巻く流る船人

何万里果る浪正行いあふ  
舟ハそ界のたうらうらり

船をうせしむいこい

てさうるはなも都とまふ更せ  
住田乃川舟のこくむく

さよぬりの小舟かやく明石か  
楫を拵ふも人の能

春行もふしづみ入るよしあしの  
帆敷のふねもあつる能はつ  
そのくと昭右の門より舟入れし  
らぎしとていりんは舞石の昔の  
その頃の船にまふいさる舟  
年を流し梅枯しそ

けり船のやうき書のはつゆ  
あやののちうらうらうらり  
海にふ浮げし船のあや  
出さしあやのあやのあや  
父まよふさふたつる海船  
行つて流れていそぎをうら



摺偶やいけすき後分字路川を  
今い頁をよみよこりる

待得つゝきみふ立野の駒送く  
ふや月を乃晴を嘯く

上白の月毛をぬし備んと  
撰り出しあるゝ祢迺駒

末遠くおヲサセルささか君う代ふ  
み清やこの馬のちこちふを以

我々をんの程とておしんをさ  
馬のかけてもけり引や有

生ひおつる牧ねの草にまを丸く  
肥コトとらつとち月の駒

五んくと弱のりなきく 武士乃  
いさむ久つとく 強武の敵

鞠のどき 蹴るを 孫ありき 丸  
飼よりふくる 甲魚の 足 駒

御牧うら 廣いせし 所のく 日  
る水て 毛たし つかさ 駒

武士を 納り 治代 行ありん とも  
駒る ありつと のむ 所の駒 七六

あし 板石 山より 出る 月や ちん 子  
ひげ ちや かね だの 駒を ぬき こと

鈴麻山 ちん ちん ちん 駒の 駒  
あんの 土山 ちん ちん 駒

うま人のうまく生れてうまき  
馬ふのりつこうまき世や人

白妙の月色も涙子かき見ゆる  
足えうるき田捨るあな

雨のあふれを松友松をよまよに  
忍保て遊ぶふ富士乃牧駒

池月の生ふる如く住の江乃  
宮ふ掛りし元信の繪馬

洗濯をたがの阿く世ふ佳駒と  
水りもせさくれがうつ人もあし

<sup>久</sup>九重のやまけの中ふ冬もさき  
富士の雪々の弱いもふ春

ふもや振神の法衣に雲おし  
葵かほくく競へるのふ  
天さうる法衣の長旅を引延る  
その甲斐女おとこし高きま駒

秋の田に種扱み牧を狩りて  
甲斐女乃らら駒めしふ女とハ

志まおそ今引おひさよあみの  
甲斐女はあゝ駒めささと立つ

あの上野原の門よりかみ  
いさよいさよいさよいさよの昔乃

名月や笛よ志まある葵の駒  
比久まよりちよけけ北侍の菴

詠をうへて 叙ある馬のむちおと  
し ぬよささるるものさしあひ

者 叙の せぬ けり なる 色  
綴 けり なる 武者 けり

千子の けり 神と 君との ささる けり  
欠る けり けり けり 代の 馬の けり

けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり

ふの けり



子の月さるるおのれお小松の妹と春を  
ひきあひてもねそ永く  
きぬの社をぬるる出ぬ  
せと  
やと  
三味線めい  
袖引ぶるあいの隆

曉のうらむかきこゝろに  
いよよめしきいよめあつらん  
む清しこのとやりの席もきぬと  
かきこゝろにぬるのうらむ  
ころねおえ思おぬと若き  
袖うらむぬる涙のうらむ

契りをいふ今とちありて小松山  
いよよめしきいよめあつらん  
うらむかきこゝろにぬるのうらむ  
又も大津とつらんぬらん  
ついでこゝろに旅持へのつらんぬらん  
心細身乃立ぬらんぬらん

あてのちよき掛をさうも曉の

ふしの煙を納めしめぬ

たよいかたひかへぬふらゝいかに

あふれもあふらゝいかにかけ

ふまさらうにんの水解ぬめ

ふぬいさしとせらるゝのきふ

かへりんら名流ういおや押さ

袖ましけしと霧のふぬ路

せりふいしと袖をたふあそ

か途ともんらゆのきぬ

系脊子より引あれて八宝列の

かへ縄を括りむらさくらを

妹也こう子白の野辺の娘小松  
引ふぬるもふ代を結つ  
信くもいとふい君ふと味ぢんの  
二株やのむつこと引ふぬる  
ゆり積る雨の扱まうふお徳  
あいの飛ん袖をぬりつ

か中ちまを指より別れ路も  
鐘つき坊の腕をきりぬき  
今いとそ別れふとびりあるなり  
京へのぬれる君とあはれを  
そ月のうらに君きふ神の嬉しき  
と新きぬくの袖のまうみ

羨りきり見し夜はほろめきぬの  
みれたまさふ何ふくらへん  
ありもよき枕庵風の襟帯ひ  
ぬくれをさうの別水酒  
朝日新白く君うかつんと  
ふふしぬらつうす水む

ぢふ股のふぬふ酒をあはせのけ  
旅立君のむせつるほろ  
うをむのぬゆき中もみぬの  
つさぬ名残ふ袖をひちぬる  
糸と馴し心細きよ木綿とる  
御うくるよのみぬぬる身を

旅衣立身おれてもあらがりごと  
系やうの計の返し強きよ

馬羽虫のおみさうくもてあつて  
はう熟源戎の君りあれて

きぬふきの身のほろおきや  
の紋日の字うつけてき

赤きとよきお人さうして  
あつたあやあつたの袖  
おほりして見ゆ。おまはらむ  
衣いさよのせきよきとれよ  
おのしと急げしあつたも  
名物そあつた君の侍

子に親をいふしゆのふち  
あつてもいぬる残りのちり

まぬふ別れをいふはめり  
まの物解くはれ ちり

水

いかにいふをいふはめり  
いふはめりいふはめり

宛とて

七

抑乞

至物

七

魚



酒盛

おまへは白くまのこ

ふんをまふ

いほのこまのこ

す

酒盛

翰のいよまのこ

まひのこ 角

いほのこ

す

完を承くとも  
樽母

酒母

葉々見のこも

ふいこり  
録しつれ

さい

右同

まがみこみ

とみこみ

こみこみ

さい

十

かゝるはなはたかき

いふことばはたかき

あはれいふことば

素人

七

あはれいふことば

あはれいふことば

あはれいふことば

酒盛

入舟の人の入舟  
酒

押船の船の舟

酒盛

心ゆくも  
酒

丸

舟の舟の舟

酒盛

別所まじりのえを

梅守

きふまの袖包

たぬきあてのね

老丸

高丸の中敷あて

わの草子あて

高丸の中敷あて

六

きんぎょの海をゆらゆら

老丸

ゆらゆら 阿まの海

けいせいの海

きんぎょの海

きんぎょの海

江丸

きんぎょの海

後海の水海

正

柳の葉のつらさ

老丸

ささひ陳福を

まらとるたやと

三

山田素人

際と毎秋え

行年おとあ

しおの家の大

二

不二此根のとき世に

魚彦

あふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

結



おまのいんげんちんめん

うしんげんちんめん

おまのいんげんちんめん

丸丸

おま









